

記者発表（配付）資料

平成 22 年 4 月 5 日

所属部課	館長	副館長	担 当	連絡先
総合政策部 萩博物館	高木正熙	樋口尚樹	樋口尚樹	25-6447

件 名	萩博物館調査研究報告第 5 号の発行について
-----	------------------------

萩博物館では、毎年学芸職員の調査研究活動の成果を広く知ってもらうため、『萩博物館調査研究報告』を発行しています。このたび、第 5 号を発行いたしましたので、ご高覧ください。

1. タイトル 萩博物館調査研究報告 第 5 号 (ISSN 1880-7992)

2. 内 容 : 「萩博物館所蔵の田中市郎コレクション (I) : 魚類標本 (2)」

執筆者：堀成夫（萩博物館主任研究員）

萩博物館が所蔵している魚類標本 36 種（62 点）の目録紹介。

これらの標本は、昭和初期に萩在住の博物学者田中市郎が収集したもので、昭和 20 年（1945）萩市に寄贈され、現在萩博物館で保管している。萩をふくむ本州西部や日本海南西部の生物相や環境の変化を研究するうえで極めて価値が高い。

「萩・住吉祭りの夜見世～地方新聞の記事より～」

執筆者：清水満幸（萩博物館統括学芸員）

萩の二大祭礼の一つ住吉祭りで行われた「夜見世」について報じた、明治 33 年（1900）から大正 15 年（1926）までの萩の地方新聞記事を紹介し、祭礼の変遷を追うための基本資料とする。

住吉祭りでは、昭和 30 年代半ば（1960）ごろまで家々を開放し、祭りに合わせて製作した作り物や、それぞれの家で所蔵する書画骨董品、生花や盆栽などを座敷に飾り、夜間に灯りを燈して公開しており、「夜見世」と呼んでいた。

「萩反射炉関連史料の調査報告（第一報）」

執筆者：道迫真吾（萩博物館主任研究員）

世界遺産の暫定リストに記載された「九州・山口の近代化産業遺産群」の構成資産の一つ「萩反射炉」に関する基礎的事実を把握するために、長州藩の藩政文書（山口県文書館蔵）から萩反射炉に関連する史料を調査した報告。

長州藩は、安政 2 年（1855）11 月に反射炉築造の担当者を置いて準備にとりかかり、翌 3 年に反射炉を試験的に築いたが、同年 11 月に本式の築造を中断してから安政 5 年末まで、実用的な反射炉を築いていないことが判明した（安政 6 年以降の史料については未調査）。

「越後に存在する松陰史料」

執筆者：一坂太郎（萩博物館特別学芸員）

越後長岡藩の家老河井継之助の家に伝わった、吉田松陰の伝記「吉田寅次郎伝」（写本、長岡市立中央図書館所蔵）の調査報告。

この松陰伝記は、河井継之助が筆写したものといわれていたが、今回の調査で河井の自筆か否かは「灰色」と断定した。

伝記の内容は、安政元年（1854）3月の米国密航未遂事件と同5年の幕府閣僚暗殺計画のみに絞り書かれている。

伝記の内容から、最古の部類に属する伝記で、幕末から明治初年に成立したと推察される。

3. 編集・発行：萩博物館

4. 価格：500 円（萩博物館ミュージアムショップにて販売）

5. 発行日：平成 22 年（2010）3 月 30 日

6. 仕様：A 4 判、38 ページ、白黒印刷、300 部発行